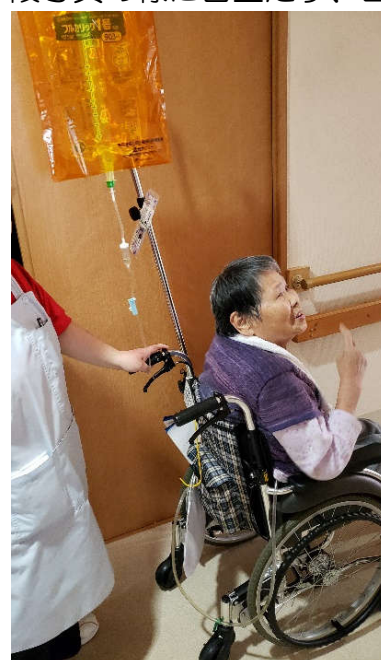


中心静脈栄養の利点

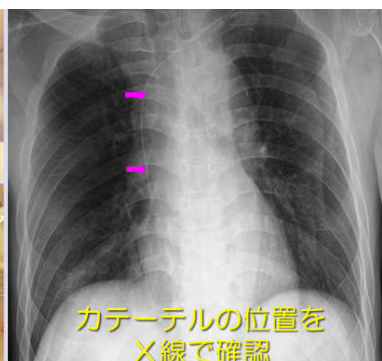
中心静脈栄養（CVポート）は、抗がん剤の投与のためより、最近では高齢者の輸液投与のための使用がほとんどです。高齢者に多くみられる誤嚥性肺炎や食事摂取が困難になった場合、輸液が必要になってきます。高齢者は度重なる末梢血管からの点滴で、徐々に血管確保が難しくなります。また、静脈炎等で点滴が継続できない場合があります。短期間で終了見込みが乏しい時は中心静脈栄養が考慮されます。

- CVポートでは下段写真の様な大きなセプタム部分に簡単に針をさすことが出来るので、一回で確実に点滴することができます。
- 中心静脈栄養では手足からの点滴のように毎回針を刺す痛みがありません。
- 患者様の体格にもよりますが、外見上、埋め込んだ部分は下段写真の様に目立たず、日常生活に支障なく、入浴も普通にできます。
- きちんと管理すれば、合併症を起こすことなく長期にわたって(2年以上)使用することができます。
- 点滴中も両手足を自由に動かさず(右写真)。
- 手足からの点滴では濃度が低い輸液でないと静脈炎を生じるためできません。食事が食べられず、数日以上輸液をする場合は手足からの濃度の低い点滴では栄養は足りなくなります。一方、中心静脈栄養は太い静脈にカテーテルが入るため高濃度の輸液ができ、中心静脈栄養のみで生きていくことができます。
- 状態が悪くなると手足の点滴に使う静脈は細く、もろくなり、長く続けることは不可能になり、1~2ヶ月が限界です。
- 中心静脈栄養なら睡眠中も安心して点滴をできます。栄養が足りない場合、夜、点滴をして昼間自由になれます。
- 吐き気や誤嚥の発生しやすい状況、胃腸に問題がある時は点滴・輸液で維持することになりますが、2~3週以内に改善が期待できない時は一般に中心静脈栄養が選ばれます。

※中心静脈栄養ポートの設置は局所麻酔下、左右どちらかの前胸部（鎖骨下静脈）に40分程度ででき、安全です。



ポート作成



カテーテルの位置を
X線で確認



ポート作成術後
入浴は普通にできます



点滴中